

Ouhokai - Kaihou

編集発行：山口県立大学同窓会桜圃会

〈事務局〉〒753-8502 山口市桜島3-2-1

TEL&FAX083(925)7485 振替口座01570-2-25095

メールアドレス ouhokai@yamaguchi-pu.ac.jp

印刷：(株)マルニ

# 桜圃会 会報

Vol.68

令和2年3月1日発行



山口県立大学同窓会桜圃会第40回公開講座



(左から) 井出崎優氏、宮川彬良氏、LE VELVETS、VOJA-tension、湯川れい子氏

## 令和と桜圃

会長 福田 百合子



令和元年は「桜圃」の号を名乗った寺内正毅の没後百年に当る記念の年でもありました。山口市平川生れ、宮野桜島在の彼は明治政府の重鎮として、教育総監や総理大臣の職を全うした人です。記念行事として大学でも学習院大学千葉功教授による「寺内正毅と近代国家」と題し公開講演が開かれ、山口市と共催の遺品展なども盛会でした。

「寺内文庫」として馴染み深い建物も風雨に漂らされ残念な状態ではありますが、蔵書類は「桜圃文庫」として附属図書館に収納、韓国の研究機関との交流の源ともなった貴重な品々です。地域に根ざした桜圃の名称に懐かしさと同時に強い縁を覚えずにはおられません。

令和の元号名は、国文学者中西進先生の万葉集からの提言に基づく由。中西先生は早くから万葉集の歌に詠まれた地域を訪問解説を続けられ、

数年前には宮野小学校に於て山口県の次の二首を子供たちに示して下さいました。日本海側一首、山陽側陸路では唯一の一首です。

「周防なる岩国山を超えむ日は手向けよくせよ荒しその道」(巻四)旅の安全を願った歌です。

「角島の瀬戸のわかめは人のむた荒かりしかどわがむたは和海藻へにぎめ」(巻十六)わかめと乙女の黒髪を重ね、自分へは優しかったと回想する舟人なのでしょう。まだ橋が掛かっていない頃の角島や、岩国へ越える山道を学生たちと歩いた日を昨日のように思い出します。

令和は桜圃の名称は地域の人々と共に、若い人達の胸に深く刻まれ、受け継がれ、輝き続けることでしょう。私の恩師太田静一先生、更にその師塩谷温お二人の辞書「新字鑑」に記された「温故知新」の文字の意味を改めて考えさせられました。

(昭和23年国語卒)